令和５年２月３日　産業建設委員会協議会資料

政策提言に向けた閉会中の所管事務調査の取りまとめ（たたき台：視察先別）

〇令和３年度管外視察（オンライン）

１　＜高岡市＞　テーマ　魅力的な観光地域づくりと広域観光の推進

（１）新高岡駅を活用した広域観光推進事業について

・高岡市自身が観光の目線に立ったわが町の特徴（地域の実情）を理解している。

・広域観光の推進における高岡市の立ち位置は、越中・飛騨・能登エリアの“ハブ機能”と明確であり、リニア・三遠南信時代に飯田市が果たすべき大きな役割と考える。

⇒　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握

・外への魅力発信のみならず、内への魅力発信も行っている。

・市民の思い、考えと一致していることが大事との視点は大事なこと。

・外国人観光客の目の付け所を考慮した戦略が必要と感じた。

⇒　効果的な情報発信のあり方

・関係人口を増やすことで移住・定住を目指すなど利便性から誘客をする取り組みがしっかりできていると感じられた。

⇒　誘客（観光）戦略のあり方

⇒　移住・定住戦略のあり方

（２）周辺都市と連携した広域観光の推進について

・観光政策における行政の役割のあり方。

⇒　民間と行政の役割分担　…　南信州観光公社との意見交換

・飯田市は南信州エリアと三遠南信エリア（愛知、静岡）との連携を行う上での結節点であることから、地域連携のリーダーシップをより一層発揮していく必要がある。

・他県、他市町村の世界遺産や観光スポットをバスで結ぶ取り組みは、画期的である。（飯田市でも三遠南信開通を見据えて参考になるのでは。）

⇒　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握

２　＜西条市＞　テーマ　「チャレンジを応援するまち」の取り組み

（１）ローカルベンチャー誘致・育成事業について

・西条市自身がわが町の特徴（地域の実情）を理解している。

・社会課題の解決を、起業を前提とした地域おこし協力隊に託し、その伴走支援や進捗管

理までもコーディネーターとして採用した地域おこし協力隊に任せている。まさに“若者が挑戦できるまち”を実現している。それぞれの起業家（地域おこし協力隊）が最長３年という短い期間で、自身のアイデアを十分に発揮しカタチにするためには、その活動の自由度や地域住民の寛容性が試される。その環境整備が、行政の重要な役割の一つと感じた。

・地域資源の有効活用や地域課題の解決を、域外からの起業家の新たな発想により打開を図る取り組みは、一般の地域おこし協力隊の一歩先をゆく取り組み

⇒　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握

⇒　地域との連携強化（下平委員）

・西条市のシティープロモーションビデオは中身と編集は参考になる。

⇒　効果的な情報発信のあり方

~~**⇒　地域との連携強化（下平委員）**~~

（２）民間企業（モンベル）との連携による観光振興について

・「交流を楽しみながら旅をする」という明確な取り組みにより観光客誘致（交流人口増大）を行っていることは強み。

・南アルプスエコパーク・ジオパークをいかに活かしきるか。

・飯田市と連携し、南信濃などの観光資源を活かすことを行って頂ける大手の企業はないか。

⇒　誘客（観光）戦略のあり方

・起業家（個人）や企業（民間）へのアプローチ。

⇒　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握

○令和４年度管内視察（所管事務調査に関する部分のみ抜粋）

（１）しらびそ高原施設について

・星空をテーマとした「ダークナイトツアー」は、今後の誘客の目玉になる企画だと感じた。

⇒　誘客（観光）戦略のあり方

・郡市民の利用増、リピート増に期待する。

⇒　効果的な情報発信のあり方

・民間感覚からすると、経営として採算が合わないのか。新しい発想は生まれないのか、時期はどうか。

・行政として安全・安心な道路整備によるアクセス向上に今後も努め、誘客につなげていくことが大切である。（下平委員）

⇒　**地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握**

⇒　**誘客（観光）戦略のあり方**

（２）かぐらの湯周辺整備について　…　今後の動向を反映する必要あり

・温泉施設、飲食施設無しでの発展は難しい。

・早期に整備計画がまとまるように事故後の処理が進むことが重要。

・しっかりとした経営計画を立てて示す必要があると感じる。

・再度スタートする限りは、資金繰りができて採算が合うよう、時を選び、また、中途半端でなくしっかり準備したほうが良い。

⇒　**地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握**

⇒　**誘客（観光）戦略のあり方**

⇒　**効果的な情報発信のあり方**

（３）合同会社「クロドテンリュウ ワイン・シードル」の醸造施設について

・飯田市に人のながれをつくる、ひと役を是非担っていただきたい。

⇒　**誘客（観光）戦略のあり方**

・地元産の農産物が必要になるのであれば、有り難い事業である。

・クロドテンリュウ自身でも遊休農地を利用してぶとうの栽培を始めており、遊休農地解消に繋がっている。（橋爪委員）

・社長が目指す施設とシステムが出来上がり、会社が今後、飯田市に根付いていただけることを祈りたい。

⇒　**地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握**

⇒　**地域との連携強化**

・地元でも会社がどんなものか、何をするところかを知らないので多くの方に知っていただくことから始めていきたい。

⇒　**効果的な情報発信のあり方**

（４）市民農園（飯田ふれあい農園桐林農園）について

・非農家の方は農地を借りることができないので、市民農園の取り組みは重要である。借り手側の要望が増加し、遊休農地の削減につながれば。

⇒　**地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握**

⇒　**遊休農地化の回避と農ある暮らしの提供**

・市民農園は農ある暮らしの一つの形であり、今後も持続的な取り組みとなるよう望む。

⇒　移住・定住戦略のあり方

・地権者主体の運営を行っている中で、空き区画が出ないよう時宜に即した利用者募集を行っていると感じた。

・近年は外国人の利用も増えてきている。（橋爪委員）

⇒　効果的な情報発信のあり方

（５）龍江産業団地について

・企業誘致の取り組みが最重要。

・企業誘致の状況についても注視していきたい。

・分譲地を希望する企業はあるとのこと。今後も、これほどの敷地を必要とする企業はあるのだろうか。国内、そして世界的な動向はどうか研究したい。

⇒　企業誘致（利活用者確保）戦略のあり方

〇令和４年度管外視察

１　愛媛県西条市

視察テーマ：昼間人口の増加率を高め、地域内経済循環を図るまちづくりについて

・移住フェアへの参加：あればすべて出席する

・個別無料オーダーメイド型の移住体験ツアーの実施。

・職員が移住コンシェルジュ。２日間付きっきりで担当は変わらない。

・人をつなぐ。先移住者につなぐ。そうすることで移住した時にはすでに知り合いがいる環境をつくることができる。

・体験ツアーを経験した方がホスト役となり話をする。そこまで話に関わっていなかった人、地域の方を巻き込みながら好循環が生まれている。人が人をつなぐ「自分事として考える」。

⇒　移住・定住戦略のあり方

・お試し移住一棟の運営（利用料一日１０００円）、空き家バンクの住宅改修の補助金、町おこし協力隊のローカルベンチャーの育成、移住支援金（東京都内から西条市内の対象企業へ就職した場合）を出すことで企業の人材確保の一つの手段となっている。

⇒　人材確保戦略のあり方

・若い人の情報収集能力は高い。テレビ、ラジオ、インターネットなどメディアを使って年代別に分けて情報発信する。

・移住促進サイト＝love 西条　市の公式サイトとは別に人にしっかりスポットを当てている。
・love 西条のポロシャツを市民が購入できる事と、職員も着用し宣伝している。（橋爪委員）
・西条市の紹介動画がとても端的明瞭にまとまっている印象をうけた。
・情報の発信方法を第一に考えている。伝えたい人に伝えたい内容を伝わる方法で行う。

⇒　効果的な情報発信のあり方

２　香川県高松市

視察テーマ：中心市街地のにぎわい復活を目指した拠点づくりについて

・中心市街地の再開発については、民間活力の導入によるとこが大きい。行政の取り組みとしては、手続き等の事務処理が中心である。

⇒　民間と行政の役割分担

・中心市街地の活性化では、インバウンドも含めた誘客に力を入れている。各種事業の相乗効果により「来たい・住みたい・楽しめるまち」を目指しているが、サンポートエリアにみるように、いわゆる箱物にたよる部分も多い。

⇒　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握

⇒　誘客（観光）戦略のあり方

・特に力を入れている「回遊性」では、再開発とあわせて上手く魅力発信できれば一定の成果があがると思われる。

⇒　効果的な情報発信のあり方

３　香川県高松市丸亀町商店街

視察テーマ：中心市街地及び商店街活性化の取り組みについて

・62 年間限定で土地を借り上げる定期借地権契約を導入。
・道路幅員に加えて、セットバックすることで公共空間と一体となった回遊性の確保。
・商店街の上に医療やコミュニティ施設の設置とその上にマンションを作っている。
・失敗例から学ぶ
・若者世代にこだわらず、高齢者の移住を強く推進。（下平委員）

⇒　発想の転換

・居住者を増加させることによる商店街の活性化。
・国、県、自治体、商店街の協力体制が構築されている。（橋爪委員）

⇒　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握

⇒　移住・定住戦略のあり方
⇒　民間と行政の役割分担（橋爪委員）

４　岡山県笠岡市
視察テーマ：廃校を活用したシェアアトリエの取り組みについて

・「使いたい」という事業者の思い。「のこしたい」という地域の思い。「地域活性化につながれば」という行政の思い。を事業計画化。共益性、公益性、住民合意のための説明会等を開催し、利活用検討開始（閉校１カ月後）から３年を有し現在に至る。
⇒　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握

・市有施設の老朽化や利用者数の減少等によりこれまで通りの施設運営はできなくなってきている。市有施設活用の参考の一つとなった。
⇒　発想の転換
⇒　企業誘致（利活用者確保）戦略のあり方

・どの事業体や組織においても続けていくための財源確保は、避けては通れない最重要の課題の一つ。
・運営管理費については、補助金に頼ることなく自前でまわせる事業スキームを作り上げることがやはり本来の姿である。
・その実現のための情報や知恵の提供といった実務的なサポートをしていくことが行政の役割であろう。
⇒　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握
⇒　民間と行政の役割分担

〇令和４年度所管事務調査　…　各種意見交換会
（１）大学生ユーチューバー（R4/5/3, R4/8/9）

・「情報がうまく若者にとどかない」のでは。
・興味を持ってもらえるような映像にして発信しなければ見てもらえない。
・今後も南信州の魅力を発信していく。同じように南信州の魅力を PR している方とコラボできれば。
⇒　効果的な情報発信のあり方

・住みたい田舎ランキングや「焼肉の町」だけではわかりにくい、的を絞って具体的な内容をアピールする。（分析が必要）
⇒　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握
⇒　誘客（観光）戦略のあり方

⇒　**移住・定住戦略のあり方**

・中学、高校での職場体験は、直接Ｕターンにはつながらないのでは。体験時に強い興味がない限り重要とならない。
・地元にどんな企業があるかわからないので、もう少し若い年齢の時に多くの仕事の情報を聞く方が効果が高いのでは。
・飯田市の良さを知ってから他地域へ出て行って欲しい。誇りを持ってほしい。

⇒　**地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握**
⇒　**Ｕターン戦略のあり方**
⇒　**ふるさと（を知ることの）教育のあり方**

（２）アルプスウェア株式会社（R4/5/9）

・飯田市はネットサービスが遅れているというか必要性を感じない人が多いと感じる。
・若者はネットサービスが無いと集まらない。

⇒　**ネットサービスの拡充**

・年寄と若者の交流にはデジタル化が必要である。
・農業の面でもデジタル技術の応用は可能である。

⇒　**誰でも使えるデジタルコンテンツの開発**
⇒　**発想の転換**

・飯田に人の流れを作るためには、魅力をアピールして住んでみたいなと思わせる事。

⇒　**誘客（観光）戦略のあり方**
⇒　**移住・定住戦略のあり方**

・市内は製造業が地盤となっていてインフラ環境がどのように整っているかが重要。
・飯田市はＩＴ系の企業が知られていない。（橋爪委員）
・システム分野の詳細を把握することにより、当地域に足りない分野を把握し補うことも必要。
・会津大学はコンピュータ理工学専門の大学で情報通信技術（ＩＣＴ）のあらゆる分野を含んでおり、産学官連携の拠点施設も有している。信州大学の新学部は情報系ともいわれていることから、学部誘致と当地域へ産学官連携拠点施設ができることによる相乗効果を発揮できる取り組みが必要。
・女性に視点を当てたＩＴ系における活躍の場（例：システム開発）のＰＲが必要ではないか。

⇒　**地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握**

・リニアが開通しアクセスが良くなるので、その宣伝を今から進めていくことも重要。

⇒　効果的な情報発信のあり方

・採用面では IT 関連の会社は若い人が多く専門的な知識も必要であり出身地が限定されず、どこにあるのかではなく会社が何をしているのかを選択して入社してきている。

⇒　発想の転換

⇒　効果的な情報発信のあり方

⇒　人材確保戦略のあり方

・今いる県外の社員はいずれ飯田市で所帯を持っていただきたいと考えている。

⇒　移住・定住戦略のあり方

（３）地域連携ＤＭＯ　南信州観光公社（R4/8/19）

・宿泊施設の料金体系の見直し（料理の質向上とそれに見合った料金設定）

・体験型プランの充実により、コロナ渦でも来飯者が増加している。（下平委員）

⇒　誘客（観光）戦略のあり方

⇒　発想の転換

⇒　効果的な情報発信のあり方

（４）宅地建物取引業協会南信支部（飯伊不動産組合）（R3/12/3,R4/12/2）

・飯田市の農地の下限面積の条件が周辺町村より厳しいため、せっかく飯田市に興味を持ってもらっても周辺町村へ移住されてしまうので、下限面積の見直しをしてほしい。

⇒　移住・定住戦略のあり方

⇒　発想の転換

・飯田下伊那の地価動向は、48 地点中 40 地点が下落、上郷飯沼・座光寺の８地点は横ばい（政治的判断か）。地価が下落するところに民間は興味を示さないので、何らかの対策が必要。特に高さ制限などは見直しをしたほうが良い。

・新幹線駅の設置が地価上昇、人口増加、産業振興、地域発展に直接はつながらないように見える。

・新幹線駅周辺の画一的な開発だけに重点を置かない、飯田下伊那地域としての長期展望が必要である。

⇒　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握

⇒　発想の転換

⇒　企業誘致（利活用者確保）戦略のあり方

⇒　誘客（観光）戦略のあり方
⇒　移住・定住戦略のあり方

以　上

＊＊＊＊＊　提言に向けた視点一覧　＊＊＊＊＊

1　地域の実情（特徴）と果たすべき役割の把握（15）
2　効果的な情報発信のあり方（12）
3　誘客（観光）戦略のあり方（11）
4　移住・定住戦略のあり方（９）
5　発想の転換（７）
6　民間と行政の役割分担　…　南信州観光公社との意見交換（３）
7　企業誘致（利活用者確保）戦略のあり方（３）
8　人材確保戦略のあり方（２）
9　地域との連携強化（１）
10　遊休農地化の回避と農ある暮らしの提供（１）
11　Ｕターン戦略のあり方（１）
12　ふるさと（を知ることの）教育のあり方（１）
13　ネットサービスの拡充（１）
14　誰でも使えるデジタルコンテンツの開発（１）